

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
 (国際コミュニケーション学科 1年生 (昼間部) 2年制)

科目区分	分類	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
講義	必修	表現力	80					
演習	必修		80					
講義	必修	異文化コミュニケーション	160					
講義	必修	日本文化研究	80					
講義	必修	グローバル時事・経済	80	○	40	★	40	
講義	必修	グローバル経営・マーケティング	80	○	40	★	40	
演習	必修	マナートレーニング	160					
講義	必修	プロジェクトチームワーク	80					
演習	必修		80					
講義	必修	文章表現	80					
演習	必修		80					
講義	必修	キャリアデザイン	80					
講義	必修	検定対策	80					
演習	選択	サービス接遇スキルアップ	80					
演習	選択	面接対策	80					
講義	選択	グローバルコミュニケーション英語	160					
講義	選択	TOEIC	160					
講義	選択	外国語	160					
講義	選択	ホスピタリティ	160					
講義	選択	経営戦略	160	○	80		80	
講義	選択	通訳翻訳基礎	160					
講義	選択	一般教養 政治・経済	160					
講義	選択	一般教養 地理・歴史	160					
講義	選択	一般教養 数学	160					
講義	選択	一般教養 英語	160					
講義	選択	小論文対策	160					
総授業時数			2,480		160		160	
卒業に必要な授業時数 (学則)			1,840					

※ 選択科目は少なくとも240時間以上履修するものとする。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	表現力	塚本誠子	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
自分の言いたいことを言えるようになる。			
【講義概要】			
場面を設定し、実際にその場にいる想定で自分自身で考えながら表現力を磨く。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	パーティでの会話	16	練習問題: 可能形
2	買い物での会話	17	練習問題: 依頼を断る
3	レストランでの会話	18	練習問題: 忘れ物をしたとき
4	電車、バスに乗る	19	練習問題: 準備する
5	タクシーに乗る	20	練習問題: 予定、意志を伝える
6	旅行での会話	21	練習問題: アドバイスをする
7	気持ちを伝える	22	練習問題: 禁止形
8	病院、美容院、不動産会社での会話、宅配便を頼む	23	練習問題: 指示を出す
9	個人宅訪問: 友人宅、上司宅	24	練習問題: 意見を聞く
10	ビジネス: アルバイトに応募、面接	25	練習問題: 目標に向かって努力する
11	ビジネス: 電話のかけ方	26	練習問題: レポートする
12	緊急事態での会話	27	練習問題: 動詞の名詞化
13	まとめ	28	練習問題: 謝罪
14	前期試験	29	練習問題: 目的を言う
15	総評	30	後期試験
【成績評価方法】			
授業態度、出席率40%、テスト60%、			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>実戦形式で表現力を養う</p> <p>担当教員は大学卒業後教育業界に従事し、国語、書道教諭、日本語講師等の指導経験が長い。</p> <p>これまでの実務経験に基づき表現力の向上に向け、授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	異文化コミュニケーション	文屋 早苗	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分化・多文化を意識し、生活者として必要な日本の文化風習を自然に身につける。 ・ 異文化の中で生活していること意識づけ、再確認を行い順応する能力を鍛える。 			
【講義概要】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の何気ない文化の違いや気づきをクラスメイトと共有し日本語による意見交換や考えを発表する。 ・ 協働学習を重視し、日本語によるコミュニケーションが円滑に行えるようにする。 			
回	授業計画及び学習の内容		
1	4/16 自己紹介	16	10/8 夏季課題提出・発表
2	4/23 自分化・多文化について1(GW課題)	17	10/15 異文化コミュニケーション実践1
3	5/7 GW課題提出・発表	18	10/22 異文化コミュニケーション実践2
4	5/14 自分化・多文化について2(GW課題)	19	10/29 異文化コミュニケーション実践3
5	5/21 日本の文化習慣1(生活)	20	11/5 異文化コミュニケーション実践4
6	5/28 日本の文化習慣2(社会)	21	11/12 異文化コミュニケーション実践5
7	6/4 日本の文化習慣まとめ	22	11/19 異文化コミュニケーション実践6
8	6/11 異文化コミュニケーション1	23	11/26 異文化コミュニケーション実践7
9	6/18 異文化コミュニケーション2	24	12/3 異文化コミュニケーション実践8
10	6/25 異文化コミュニケーション3	25	12/10 異文化コミュニケーション実践9
11	7/2 異文化コミュニケーション4	26	12/17 異文化コミュニケーション実践10
12	7/9 復習1	27	1/14 復習3
13	7/16 復習2	28	1/21 復習4
14	7/23 中間試験	29	1/28 期末試験
15	7/30 中間試験FB(夏季課題)	30	2/4 期末試験FB
【成績評価方法】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出物25%、小テスト25%、期末試験30%、中間試験20%、期末試験未受験は評価をつけない。 ・ テストの合格点はいずれも50%以上とする。不合格・未受験の場合は追試課題(作文)提出とする。 ・ 出席率90%未満は評価をつけない。 			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<ul style="list-style-type: none"> ・異なる文化や価値観を理解する。自文化やバイアスに気づき、他文化を尊重する姿勢を培うよう促す。 ・授業では、理論的な知識だけでなく、実際のコミュニケーションシチュエーションを通して学ぶ。 ・プレイやグループディスカッションなどの活動を通じて、実践的なスキルを身につける。 ・実際の事例やケーススタディを取り上げ、学生が実際の問題に対処するスキルを身につけ、現実の状況での適切な対応方法を学ぶ。 ・学生のコミュニケーションスキルを向上させるため、授業で定期的なフィードバックや振り返りの機会を設け、学生が自分のコミュニケーションスキルの強みや改善点を把握し、成長することをめざす。 <p>・担当教員は外資系企業経験および日本語学校にて豊富な異文化コミュニケーション経験があり各国の文化習慣に詳しい。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	日本文化研究	堀越ゆう子	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
日本文化への理解を深めることで、コミュニケーションがより良く図れることを目標にする。			
【講義概要】			
日本独自の文化とはどういうものか。日本文化の背景と海外での影響などを学ぶ。講義形式だけではなく体験してみることでより深く理解する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	日本語の挨拶(1)こんにちはの「は」	16	江戸時代はエコ時代
2	日本語の挨拶(2)いただきますの意味	17	熙代勝覧にみる江戸のくらし
3	季節の行事(1)ひな祭り、こどもの日	18	文芸(1)源氏物語 竹取物語
4	和服はエコ	19	文芸(2)俳句 短歌 現代詩
5	着物のつくり、名称	20	実習 俳句 詩を書く
6	着物は相手に対する思いやり 季節感	21	ことわざ 方言
7	和の色 文様	22	伝統芸能(2)落語
8	和のアクセサリ 根付け かんざし 風呂敷	23	建築 工芸品
9	実習 浴衣を着る	24	伝統芸能(3)文楽 浄瑠璃 能狂言
10	着物からできた言葉 襟を正す	25	現代語訳の狂言を読む
11	季節の行事(2)七夕 お盆	26	実習 狂言
12	伝統芸能(1) 歌舞伎	27	季節の行事(3) 大晦日 お正月
13	祭り 相撲	28	和食と器 おもてなし
14	マンガの原点 鳥獣戯画 浮世絵	29	興味を持った日本文化を調べる
15	アニメ コミケ オタク	30	興味を持った日本文化について発表する
【成績評価方法】			
出席。学習に取り組む態度。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
日本文化を紹介した文章を音読し、解説する。適宜文化体験、実習を取り入れる。芸術文化分野の実務経験がある教員が実務経験を生かして教授する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	グローバル時事・経済	岡崎 祥子	2単位／40時間

【授業の到達目標及びテーマ】

グローバル時事・経済に対して考察を行い、自分の意見をまとめることができる。また、グループワークを通して学習テーマについての理解を深め、討論することができる。

【講義概要】

身近な話題から世界のニュースに至るまで、世の中で起きていること、経済の動きに注目し、社会問題を多角的にとらえる力を養う。それぞれのトピックに関連する重要な語彙、論点、今後の展開にも注目する。さらに、クラスメイトとの意見交換を通じて、多様な考えを知る機会を持つ。

回	授業計画及び学習の内容	
1	オリエンテーション	16 移民と歩む社会
2	2024年 アメリカ大統領選	17 時事に対する考察～ レポートの書き方
3	物流 2024年問題	18 半導体市況
4	世界の人口問題1	19 世界の水問題
5	世界の人口問題2	20 和食のグローバル市場
6	世界の子育て事情	21 2024年 アメリカ大統領選～ その後
7	地震に備えて～ 防災について考える	22 世界の医療と介護問題
8	物価高と暮らし	23 グループワーク:2024年 グローバル時事・経済1
9	核兵器のない世界の実現	24 グループワーク:2024年 グローバル時事・経済2
10	AI (人工知能) とは	25 グループワーク:プレゼンテーション準備
11	アニメ文化を世界に	26 グループワーク:プレゼンテーション1
12	豊かな働き方とは1	27 グループワーク:プレゼンテーション2
13	豊かな働き方とは2	28 質疑応答
14	地球温暖化問題	29 期末テスト
15	グローバルマーケティング	30 総復習

【成績評価方法】

授業参加40%、期末テスト及び課題レポートによる総合的な評価60%

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は講義と実習形式で行い、グループワーク・発表も行う。
担当教員は、数か国の海外在住経験がある。ヨーロッパでの留学および就労(通訳・日本語教師)を通して、グローバル社会の様々な問題について深く考察する機会を得た。これらの実務経験を生かして授業を展開する。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	グローバル経営・マーケティング	寺田 泰弘	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
国際企業で求められるビジネスマナーやルールとはどういったものか、また日本企業におけるビジネス慣習とは具体的にどういったものかを理解して実践できるようになること。更にはケーススタディを通じて課題解決力等の実践的なビジネススキルを身につけること。			
【講義概要】			
グローバルな企業でビジネスを展開するにあたって必要なマナーやルールを習得するとともに、効率的で信頼を得られる仕事の進め方を理解する。更に、実際のケーススタディーを通じて、問題解決の考え方や手法を体得しながらコミュニケーションスキルを向上させるプログラム構成とする。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ビジネスの進め方 基礎編 1	紹介	16 ビジネスの進め方 基礎編 15 訪問
2	ビジネスの進め方 基礎編 2	紹介	17 ビジネスの進め方 基礎編 16 訪問
3	ビジネスの進め方 基礎編 3	あいさつ	18 経営・マーケティング ケーススタディ 1
4	ビジネスの進め方 基礎編 4	あいさつ	19 経営・マーケティング ケーススタディ 2
5	ビジネスの進め方 基礎編 5	電話応対	20 経営・マーケティング ケーススタディ 3
6	ビジネスの進め方 基礎編 6	電話応対	21 経営・マーケティング ケーススタディ 4
7	ビジネスの進め方 基礎編 7	注意を受ける・する	22 経営・マーケティング ケーススタディ 5
8	ビジネスの進め方 基礎編 8	注意を受ける・する	23 経営・マーケティング ケーススタディ 6
9	ビジネスの進め方 基礎編 9	依頼・断る	24 経営・マーケティング ケーススタディ 7
10	ビジネスの進め方 基礎編 10	依頼・断る	25 経営・マーケティング ケーススタディ 8
11	ビジネスの進め方 基礎編 11	許可	26 経営・マーケティング ケーススタディ 9
12	ビジネスの進め方 基礎編 12	許可	27 経営・マーケティング ケーススタディ 10
13	ビジネスの進め方 基礎編 13	アポとり	28 経営・マーケティング ケーススタディ 11
14	ビジネスの進め方 基礎編 14	アポとり	29 経営・マーケティング ケーススタディ 12
15	理解度 テスト		30 定期試験(全授業に関する試験)
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点にて採点する。中間の理解度テスト40点、期末の理解度テスト40点、事例研究発表を20点として評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義形式を基本としながら、課題に対するペアワーク、グループワークを取り入れて、学生の自発的な学習を促進する。また、できるだけ自分で考えて答えを見つけ出すことで理解を深められるような進行とする。 教員は元石油元売り会社社員としてビジネスに携わり、系列特約店の従業員教育にも従事した経験を有しており、その実務経験を生かしてグローバルな企業でのビジネスに対応できる人材を養成する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	マナートレーニング	松尾和枝	4単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
日本の社会で暮らしていく上で、人間関係を円滑にするため、日常生活、フォーマルなシーン、ビジネスシーンで求められる社会人として適切なコミュニケーションマナーを身につける 敬語の正しい使い方をマスターする。			
【講義概要】			
場面別に、日常生活、行事、ビジネスで周囲の人々や相手を尊重する話し方ができるよう、マナートレーニングを実践的に行う。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション 日本人のコミュニケーションの特徴	16	お詫びする ①
2	訪問する ①	17	お詫びする ②
3	訪問する ②	18	意見を言う ①
4	簡単に挨拶をする ①	19	意見を言う ②
5	簡単に挨拶をする ②	20	サービスの敬語 ①
6	誘う ①	21	サービスの敬語 ②
7	誘う ②	22	スピーチをする ①
8	願いのする ①	23	スピーチをする ②
9	願いのする ②	24	面接を受ける ①
10	断る ①	25	面接を受ける ②
11	断る ②	26	電話の敬語 ①
12	申し出る ①	27	電話の敬語 ②
13	申し出る ②	28	報告をする
14	前期末テスト	29	後期末テスト
15	テストFB 前期まとめ	30	テストFB 全体まとめ
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。期末テスト・40点、定期試験40点、出席率20点から成績評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義、生徒のプレゼンテーション ディスカッション など日によって形式は変わる。 担当教師は日本語教師の資格を持ち、10年以上の百貨店勤務の経験から、敬語やビジネスマナーについての知識経験豊富。百貨店では「日本ソムリエ協会認定 ワインエキスパート・エクセレンス」を生かしワインアドバイザーとして勤務。「全国通訳案内士」の資格も持ち外国人観光客対象に日本のマナーと文化の伝授経験もある。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	プロジェクトチームワーク	倉澤雅子	4単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>チームで課題を見つけ、チームで課題を解決できるようになる。 (クラスで3～4グループのチームを作り、同じチームが通年でプロジェクト実施する予定)</p>			
【講義概要】			
<p>動機付けはSDGsとする。各スキルを段階的に身につけ課題解決に役立てる。 スキル:コミュニケーション能力、調査方法・技術、分析力、集約、創作する、伝える、反省、改善、 PDCA、スケジュールリング、IT活用、プレゼンテーション、etc.,</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	プロジェクトチームワーク導入	16	後期プロジェクト導入
2	ITの使い方	17	前期でのSDGS取り組みの見直し
3	SDGsについて、練習スライド作成	18	後期のテーマ確定、その課題・原因・データ、解決策
4	グループ分け、テーマ決め	19	解決のための自分達の取り組みへ①
5	発表準備①伝えたいことを決める、役割分担	20	解決のための自分達の取り組みへ②
6	発表準備②調査①	21	取り組み成果FB、改善策への取り組み③
7	発表準備③調査②	22	取り組み実施とFB、スライド作成へ
8	発表準備④発表原稿、スライド作成	23	スライド作成、発表原稿着手
9	発表準備⑤発表原稿、スライド作成	24	発表準備①:スライド、スクリプト
10	発表準備⑥グループ内発表	25	発表準備②:スライド、スクリプト完成、日本語チェック
11	フィードバック、改善点確認	26	クラス内発表
12	クラス内発表	27	発表振り返り、見直しと確認
13	フィードバック、改善点確認	28	SDGS探求AWARDSエントリーシート作成
14	クラス内再発表	29	SDGS探求AWARDSエントリー
15	前期振り返り	30	後期振り返り
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>学生がさまざまなスキルを駆使し課題に取り組み解決していく。講師はサポーター、ファシリテーターとして学生をバックアップしていく。担当講師は、2021年より1年、2年のプロジェクトチームワークを3年連続担当。Google社、Microsoft社の各機能並びに動画制作などIT知識を活用し、1、2年生が3年連続でチームあるいは個人でSDGs探求AWARDSに作品を参加させることの指導並びに支援を行った。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義 / 実習	文章表現	中丸優子	4単位/80時間

【授業の到達目標及びテーマ】

レベルに合った様々なテーマの作文やメールを書く実践練習を通して、日本語の文章表現の基礎を学び、社会に出ても、TPOに応じた正しい文章を書けるようになる。

【講義概要】

前半は「作文の基礎を身に着ける。後半は目的別のメールの書き方を練習。正しい言葉づかいやマナーを習得し、敬語も使えるようにトレーニングを行う。

回	授業計画及び学習の内容
1・2	自己紹介、オリエンテーション、作文の基礎
3・4	作文 私の国、町、家族
5・6	作文 私の趣味 週末の出来事
7・8	はがき、手紙の書き方
9・10	作文 私の夢 もし私が2人いたら
11・12	作文 隣の人に一言 日本でびっくりしたこと
13・14	作文 母国と日本の文化の違い ①ごみ ②交通
15・16	ビジネスコミュニケーション アポイントをとる
17・18	ビジネスコミュニケーション アドバイスを求める
19・20	ビジネスコミュニケーション 伝言する
21・22	ビジネスコミュニケーション 誘う
23・24	ビジネスコミュニケーション 募集する
25・26	ビジネスコミュニケーション 問い合わせる
27・28	ビジネスコミュニケーション 依頼する
29・30	期末テスト、総まとめ

【成績評価方法】

授業参加40%、テスト60%

【授業の特徴、形式と教員紹介】

グループワークやディスカッションで内容の理解を深め、作文で仕上げを行う実践形式。担当教員は約15年間、日本、シンガポール、香港の日本語学校や高校で指導。それ以前は出版社の編集部にて約17年間勤務。後輩社員の原稿執筆指導にもあたってきた経験をいかして授業を展開する。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	キャリアデザイン	平松明子	4単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
卒業後の就活に向けて自分の将来のキャリアをデザインできるようになること			
【講義概要】			
自己分析、企業（職業）研究、応募書類の書き方まで指導			
回	授業計画及び学習の内容		
1	将来の夢について語り合う	16	日本の就活について復習
2	日本の就活について説明	17	自己分析のアップデート
3	日本の就活について説明	18	自己分析のアップデート
4	自己分析（書き出し作業）過去・現在・将来	19	企業研究（実際に興味のある企業について調べる）
5	自己分析（書き出し作業）過去・現在・将来	20	応募書類の書き方
6	自己分析（書き出し作業）過去・現在・将来	21	応募書類の書き方
7	自己分析（書き出し作業）過去・現在・将来	22	応募書類の書き方
8	企業研究（実際に興味のある企業について調べる）	23	応募書類の書き方
9	企業研究（実際に興味のある企業について調べる）	24	面接試験の説明
10	企業研究（実際に興味のある企業について調べる）	25	面接試験のロールプレイ
11	企業研究（実際に興味のある企業について調べる）	26	面接試験のロールプレイ
12	自らのキャリアデザインを作成	27	自らのキャリアデザインを作成
13	自らのキャリアデザインを発表（質疑応答）	28	自らのキャリアデザインを発表（質疑応答）
14	前期テスト	29	後期テスト
15	前期の振り返り	30	後期の振り返り
【成績評価方法】			
授業参加50% テスト50%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
自己分析をしっかり行うことで、自分の興味や強みを把握してもらう。その上で、卒業後の就活に向けての準備を行う。担当教員は、東南アジア・中国・ヨーロッパ諸国・米国・南米・中東諸国で実務経験があり、環境保護及び先住民族問題については著書もある。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	検定対策	倉澤雅子	4単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
日本語能力試験の目標受験級(N1)対策を通して、総合的な日本語能力を高めることを目的とする。 クラス全員で試験対策問題を勉強する。			
【講義概要】			
問題構成「言語知識(文字語彙・文法)」「読解」「聴解」の出題傾向を紹介しながら、 対策ポイントの解説を行う。前半、後半の各15回の授業の10回は実践ドリルで、できるだけ数多く問題を解きながら、基礎も復習する。残り5回は試験前の模擬試験やテーマ別特訓講座なども導入する予定。			
回	授業計画及び学習の内容		
1 文字語彙①、文法①、読解①短文	16 文字語彙③、文法③、聴解①課題・ポイント理解		
2 文字語彙②、文法②、読解②短文	17 文字語彙④、文法④、読解③長文		
3 文字語彙③、文法③、聴解①課題・ポイント理解	18 文字語彙⑤、文法(文章の文法①)、読解④中文		
4 文字語彙④、文法④、読解③中文	19 文字語彙⑥、文法⑤、読解⑤長文		
5 文字語彙⑤、文法(文章の文法①)、読解④中文	20 文字語彙⑦、文法⑥、聴解②概要理解		
6 文字語彙⑥、文法⑤、読解⑤長文	21 文字語彙⑧、文法⑦、読解⑥統合理解		
7 文字語彙⑦、文法⑥、聴解②概要理解	22 文字語彙⑨、文法⑧、読解⑦情報検索		
8 文字語彙⑧、文法⑦、読解⑥長文	23 文字語彙⑩、文法(文章の文法②)、聴解③		
9 文字語彙⑨、文法⑧、読解⑦情報検索	24 模擬試験		
10 文字語彙⑩、文法(文章の文法②)、聴解③	25 模擬試験振り返り		
11 模擬試験	26 テーマ別		
12 前期テスト対策	27 テーマ別		
13 前期テスト	28 後期テスト対策		
14 テーマ別	29 後期テスト		
15 文字語彙②、文法②、読解②中文	30 後半半振り返り		
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
日本語講師として12年目。これまで、N1～N4まで検定対策クラスを数多く担当。 学生の前向きな気持ちとやる気を起こさせる分かりやすく、笑いながら学ぶ検定対策クラスを目指します。 担当教員は文章添削や論文指導の経験を持っており、これまでの実務経験に基づいて授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年/通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	サービス接客スキルアップ	浅島秀彦	4単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
観光産業、サービス業を目指す者にとって、最も重要な資質の一つであるホスピタリティマインドの「理解」「共感」「涵養」とその「醸成」を行う。そして、教室で…、学内で…、実習先で…、アルバイト先で…、家庭で…、就職先で…、その効果を行動に生かせることを目標としサービス接客のスキルアップを図る。			
【講義概要】			
サービス業の中心的業種としてのホテル業を中心に、ホテルエとしてのホスピタリティ涵養の観点から、業務・仕組み・接客、そして、関連業種の実例/(実習)/実務演習 まで、レクチャーをとおり、ホスピタリティマインドを育て、磨いてゆこうと企図しています。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	自己紹介:日本語で話す	16	Hospitality People:旅館のおもてなし/Hotelのサービス
2	挨拶:日本語を聞きとる	17	Hospitality People:Theme Park/TDRに学ぶ
3	敬語の基本:日本語で会話する	18	Service Management:クオリティサービス
4	Well-Mannered:身だしなみと接客会話/Hotel	19	Service Management:おもてなしマネジメント
5	Well-Mannered:目的別接客トークを試みる/Hotel	20	Hotel Business:Hotel Back Office/ホテルの仕組み
6	Business Manner:電話対応ビジネストーク/Hotel	21	Hotel Business:Rooms/ユニフォームサービス
7	Business Manner:接客対応・案内・入室/Hotel	22	Hotel Business:Rooms/予約・アサイメント
8	Business Study:協働システム・会社・企業	23	Hotel Business:Rooms/ハウスキーパーと客室
9	Business Study:会社の経営・継続・成長	24	Hotel Business:フロントキャッシャー/客室料金
10	Business Study:マーケティングは販売じゃあない	25	Hotel Business:Banquet/一般宴会・パーティの形式
11	Business Study:STPマーケティング・ブランディング	26	Hotel Business:Banquet/婚礼宴会・挙式から披露宴
12	Outline of Hotels:Lodging Industry/ホテルの分類	27	Hotel Business:F&B/Restaurant施設と食器
13	Outline of Hotels:ホテルのビジネス特性	28	Hotel Business:F&B/Bar・Lounge/酒の知識
14	Outline of Hotels:World Leading Hotel/IRとMICE市	29	Hotel Business:F&B/調理部門・メニュー・コース料理
15	Hospitality People:日本の旅館	30	Hotel Business:Sales/ホテルのセールス戦略
【成績評価方法】			
「年間2回の筆記考課試験」「課題レポートの作成・期限内提出」「授業毎実施の小クイズ回答」「授業参加態様」を出席率に、加重加点し、最終評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
担当教員は、大学卒業後、建設会社勤務を経て、米国大学で財務・会計学を1年半研修を終了。その後、いくつかの国内および海外の大型ホテルに勤務し、コントローラー・支配人といった経験をも有しています。ホテルはサービス業ビジネスの王道と自負しており、その経験に基づき授業を展開する。スクール形式を基本とし、ゼミナール方式で、学生にはクラスに参加できるよう、ロールプレイング、レポートの作成等を課してゆきます。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	グローバルコミュニケーション英語	ELDER KATIE MICHELLE	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>1年次に学んだことを基礎とし、英語を使ったコミュニケーション力を身につける</p> <p>日常からフォーマルまで様々な場面で、英語を使って自分の考えや相手への依頼や物事の説明などができるようになる。</p>			
【講義概要】			
<p>世界の共通言語として使われている英語の特に「話す」と「聞く」の練習を行う。</p> <p>練習はより日常の会話場面ごとに行い、そのときに必要な語彙や文法表現を同時に学ぶ。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	Icebreaker	16	Daily convers ①
2.3	Speaking Practice Shadowing and dialogue.	17	Daily convers ②
4.5	Vocabulary Building Introduce new vocabulary	18	Daily convers ③
	related to the speaking activity ora particular theme.	19	Daily convers ④
6.7	Grammar Explanation Introduce new grammar	20	Daily convers ⑤
	related to the speaking activity or a particular theme.	21	Daily convers ⑥
8.9	Using Grammar and Vocabulary Game or activity	22	Daily convers ⑦
	that involves using grammar and new vocabulary	23	Daily convers ⑧
10.11	Book Work Transition to bookwork to reinforce	24	Daily convers ⑨
	vocabulary, grammar, and comprehension skills.	25	Daily convers ⑩
12.13	Review and Feedback Review the key points	26	Daily convers ⑪
	covered during the lesson.	27	Daily convers ⑫
14	Answer questions	28	Daily convers ⑬
15	test	29	Daily convers ⑭
		30	Test
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は基本的に講義形式だが、テーマに応じてグループワークなどを行う。</p> <p>担当教員は、米国人であり、ネイティブの生きた英会話を学ぶ。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	TOEIC	松尾和枝	4単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
TOEICテスト600点以上を目指し、リスニング、グラマー、リーディングの実践的な実力をつける。			
【講義概要】			
TOEICテストの形式に従って、問題の傾向を踏まえ頻出問題や重要な攻略ポイントを解説、演習。 テキスト『TOEIC L&Rテスト全パートをひとつひとつわかりやすく』を使用			
回	授業計画及び学習の内容		
1	Part1 写真描写問題	16	Part7 読解問題
2	Part1 写真描写問題 実戦問題	17	Part7 読解問題
3	Part2 応答問題	18	Part7 読解問題
4	Part2 応答問題 実戦問題	19	Part7 読解問題 実践問題
5	Part3会話問題&4 説明文問題	20	全パート問題 テスト演習 解説
6	Part3会話問題&4 説明文問題	21	全パート問題 テスト演習 解説
7	Part3会話問題&4 説明文問題 実戦テスト	22	全パート問題 テスト演習 解説
8	Part5 短文穴埋め問題	23	全パート問題 テスト演習 解説
9	Part5 短文穴埋め問題	24	全パート問題 テスト演習 解説
10	Part5 短文穴埋め問題 実戦テスト	25	全パート問題 テスト演習 解説
11	Part6 長文穴埋め問題	26	全パート問題 テスト演習 解説
12	Part6 長文穴埋め問題	27	全パート問題 テスト演習 解説
13	Part6 長文穴埋め問題 実戦テスト	28	復習
14	定期試験	29	定期試験
15	定期試験フィードバック	30	定期試験フィードバック
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。定期試験40点X2 出席率20点から成績評価を行う。なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義と演習、解説。質疑応答という形式で実践的に行う。 担当教師はTOEIC960点、英検一級、高等学校専修免許状(英語)、全国通訳案内士(英語)資格を持ち、 語学学校でTOEIC講座を10年以上担当経験がある。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	ホスピタリティ	小高功二/ひとみ	4単位/80時間

【授業の到達目標及びテーマ】

観光産業、外食産業において、ホスピタリティ対応を高め、国内のお客様のみならず、インバウンドで来日するお客様が各宿泊施設や、レストラン店舗を利用される際、お客様毎にあったサービス向上に貢献できるレベルになることを目標とする。

【講義概要】

年間を通して、簡単な挨拶から始め、状況や場所に応じたホスピタリティの意味とコミュニケーション踏まえた対応能の取得を目的とする。

重要なことは、ホスピタリティとは個人の感覚によるところが大きいので、コミュニケーションを良くとれる能力向上も目指し、単に言葉を伝えるのではなく、相手に寄り添った伝え方も含めた対応能力の向上を目指す。

回 授業計画及び学習の内容

1	ホスピタリティとはおもてなし？	16	自分の葬式(どういう人と言われたい？)
2	ホスピタリティに通じる行動	17	利他の心
3	これって正しい？(人によって違う見方)	18	相手の立場になってみる(今までの講義を顧みて)
4	理解し、そして理解される(リスペクト))	19	レストランでの言い方
5	自分に余裕がありますか？(時間管理)	20	ツアーバスで、一人だけ足が悪い杖の人(どうする？)
6	クラスでミッションステートメント考えてみよう	21	身だしなみ
7	クラスのホスピタリティに当てはめてみよう1	22	アイコンタクト(人がみていないところでも、心のコンタクト)
8	クラスのホスピタリティに当てはめてみよう2	23	電車で老人が立っていたら席を必ず譲るか？
9	両親に感謝の言葉、手紙を書いてみよう	24	駅でホームがわからない人がいたらどうする？
10	今まで体験した最高のおもてなし(各自)	25	日本語はホスピタリティに必要なか？
11	人以外にホスピタリティは可能か(環境など)	26	実際にロールプレーしてみよう(ホテル編)
12	なぜ人はペットを飼うのか？	27	実際にロールプレーしてみよう(空港編)
13	感謝の言葉は神様の言葉	28	実際にロールプレーしてみよう(病院編)
14	人の話を聞いていますか？	29	ロールプレー(一人でやる、手伝ってもらおう？)
15	自分は社会に貢献できているか？	30	ロールプレー(自分たちで考えてやってみよう)

【成績評価方法】

テクニックよりも相手に伝わることを採点の基準とする。間違えても主体的にコミュニケーションをとる姿勢、態度で相手に”共感”できることが評価の対象とする。、実践でとても重要な要素。前期1回、後期は2回程ロールプレーイングを実施で判断。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

小高功二： 授業は講義形式だが、双方向のコミュニケーションをとりながら展開する。

ホスピタリティとは人と人のコミュニケーションの潤滑材ということを理解してもらい、うまく話すよりも気持ちが伝わる会話、対応の向上を目指す。 35年の旅行会社勤務、通訳案内士としての実務経験(ガイド、翻訳)を踏まえ、人とのコミュニケーションを大切にできる人、共感できる人を育てることが目標。

小高ひとみ：

ホスピタリティについて、客室乗務員としての実務経験や海外在住経験を活かして多角的な視点で指導する。双方向のコミュニケーションを大切に授業で、「気付き」を感じられる楽しい時間を創出する。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	経営戦略/国際ビジネス	多田徳彦	4単位/80時間

【授業の到達目標及びテーマ】

- ・企業のビジネスモデル、市場での競争力、業界内での位置づけを理解する。
- ・企業の強み、弱み、機会、脅威を分析し、将来性を評価する。
- ・就職活動やキャリア形成において、自分に合った企業を見極めるための基準を得る。

【講義概要】

企業を研究する上で重要な用語や考え方の説明する(パート1)と具体的な企業や業界を分析し解説する(パート2)もの。

回 授業計画及び学習の内容

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 授業に関するオリエンテーション、興味の確認 | 16 社会的責任(CSR)とは。具体的企業研究。 |
| 2 ステークホルダーとは。具体的企業研究。 | 17 コアコンピタンスとは。具体的企業研究。 |
| 3 プラットフォーム戦略とは。具体的企業研究。 | 18 知的財産権とは。具体的企業研究。 |
| 4 SWOT分析とは。具体的企業研究。 | 19 グローバル展開戦略とは。具体的企業研究。 |
| 5 MVVとは。具体的企業研究。 | 20 人工知能(AI)の活用とは。具体的企業研究。 |
| 6 M&A戦略とは。具体的企業研究。 | 21 D2C戦略とは。具体的企業研究。 |
| 7 組織文化とは。具体的企業研究。 | 22 オムニチャネル戦略とは。具体的企業研究。 |
| 8 市場シェアとは。具体的企業研究。 | 23 オープンイノベーションとは。具体的企業研究。 |
| 9 標準化戦略とは。具体的企業研究。 | 24 顧客関係管理(CRM)とは。具体的企業研究。 |
| 10 イノベーション能力とは。具体的企業研究。 | 25 Eコマース戦略とは。具体的企業研究。 |
| 11 キャッシュフローとは。具体的企業研究。 | 26 後期講義内容の理解度試験。 |
| 12 DXとは。具体的企業研究。 | |
| 13 サステナビリティとは。具体的企業研究。 | |
| 14 前期講義内容の理解度試験 | |
| 15 サブスクリプションモデルとは。具体的企業研究。 | |

【成績評価方法】

前期、後期年2回の試験による理解度の客観的把握を主に、授業での発言や積極性も考慮し総合判断する。講義全体を100点満点とし、授業への参加・意欲50点、試験50点で評価する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

社会に出て活かせる用語、戦略を表面的に理解するに留めず、実践的且つ本質的に理解できるように指導する。

担当教員は、38年間総合商社で実際の国際ビジネスに携わり理論を実践で使用してきており、この経験を授業に活用する。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	通訳翻訳基礎	小高功二	4単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
観光産業、外食産業において、英語能力を高め、インバウンドで来日するお客様と各宿泊施設や、レストラン店舗スタッフとの間の意思疎通の促進、サービス向上に貢献できるレベルになることを目標とする。			
【講義概要】			
年間を通して、簡単な挨拶から始め、状況や場所に応じた英語の翻訳と通訳とコミュニケーションを目指す。重要なことは、通訳も翻訳もコミュニケーションを目的としていること。単に言葉を伝えるのではなく、伝え方も含めた能力向上達成を目標とする。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	挨拶の仕方(いろいろな挨拶)	16	物の数え方
2	場所や状況を考えようⅠ(朝、昼、晩)	17	重さ、長さ、
3	場所や状況を考えようⅡ(交通機関、ホテル)	18	ホテルの中の名称(言い方がある)
4	場所や状況を考えようⅢ(学校、市役所)	19	レストランでの言い方
5	Whatの使い方	20	空港で使う英語
6	Whenの使い方	21	電車の中のアナウンス
7	Whoの使い方	22	新幹線は英語でも新幹線？
8	Whereの使い方	23	日本のことを英語で説明してみる1(切符)
9	Howの使い方	24	日本のことを英語で説明してみる2(自動販売機)
10	5H1H 全部使ってみよう	25	日本のことを英語で説明してみる3(神社)
11	Want の使い方(人をお願いしてみよう)	26	日本のことを英語で説明してみる4(お寺)
12	Makeの使いかた	27	日本のことを英語で説明してみる5(納豆)
13	Takeを使って英語力を伸ばそう	28	デジタル決済について(種類)
14	Haveの使いかた	29	ロールプレー(ホテル編)
15	LET は使い方次第で便利	30	ロールプレー(レストラン編)
【成績評価方法】			
テクニクよりも相手に伝わる事が採点の基準とする。間違えても主体的にコミュニケーションをとる姿勢、態度は、実践でとても重要な要素。前期1回、後期は2回程ロールプレーイングで評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は講義形式だが、双方向のコミュニケーションをとりながら展開する。通訳も翻訳も人と人のコミュニケーションの潤滑材ということを理解してもらい、うまく話す、訳すよりも気持ちが伝わる会話、翻訳能力の向上を目指す。35年の旅行会社勤務、通訳案内士としての実務経験(ガイド、翻訳)を踏まえ、人とのコミュニケーションを大切にできる人を育てることを目指し授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	1年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	一般教養・地理・歴史	松尾和枝	4単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>一般教養としての日本の文化、地理と歴史をより深く身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の研究や就職後の業務に役立つ日本について基本的な事象、文化、歴史を学ぶ。 			
【講義概要】			
<ul style="list-style-type: none"> ・47都道府県と日本の地理、歴史、文化を学ぶ。 ・現代社会にある出来事を結び付けながら知識を深めていく。 ・日本全国を旅するように、その土地の歴史、文化に触れる。 ・各地域の特徴や興味を探り、探究、共有する。 			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション 日本 <small>の</small> 地域区分 文化 歴史概	16	四国地方①
2	日本の文化 ①	17	四国地方②
3	関東地方 ①	18	九州地方①
4	関東地方 ②	19	九州地方②
5	関東地方 ③	20	九州地方③
6	日本の文化 ②	21	日本の文化 ③
7	近畿地方① □	22	中部地方①
8	近畿地方②	23	中部地方②
9	近畿地方③	24	中部地方③
10	北海道①	25	中部地方④
11	北海道②	26	東北地方①
12	中国地方①	27	東北地方②
13	中国地方②	28	東北地方③
14	前期末テスト	29	高期末テスト
15	テストFB 前期まとめ	30	テストFB 後期まとめ
【成績評価方法】			
<p>講義全体を100点満点として採点する。2回の定期テスト40点 プレゼン40点 出席率 20点から成績評価を行う。</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>講義、生徒のプレゼンテーション ディスカッション など日によって形式は変わる。担当教師は、全国通訳案内士(英語)資格を持ち、ガイド経験とインバウンド観光の視点からの日本の地理、文化、歴史に関して幅広い知識を持つ。</p>			

都作成参考例【国及び都が定める添付資料①】

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
 (国際コミュニケーション学科 2年生 (昼間部) 2年制)

科目区分	分類	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
講義	必修	表現力	80					
実習	必修		80					
講義	必修	異文化コミュニケーション	160					
講義	必修	日本文化芸能論	80					
講義	必修	グローバル時事・経済	80	○	40	★	40	
講義	必修	グローバル経営・マーケティング	80					
実習	必修	マナートレーニング	160					
講義	必修	プロジェクトチームワーク	80					
実習	必修		80					
講義	必修	文章表現	80					
実習	必修		80					
講義	必修	IT情報リテラシー	80					
講義	必修	ビジネス検定対策	80					
実習	必修	サービス接客スキルアップ	80	○	40	★	40	
実習	必修	面接対策	80					
講義	選択	グローバルコミュニケーション英語	160					
講義	選択	TOEIC	160					
講義	選択	BJT	160					
講義	選択	プレゼンテーション	160					
講義	選択	SPI	160					
講義	選択	通訳翻訳基礎	160	○	80	★	80	
講義	選択	TOEFL	160					
講義	選択	一般教養 政治・経済	160					
講義	選択	一般教養 地理・歴史	160					
講義	選択	一般教養 数学	160					
講義	選択	一般教養 英語	160					
講義	選択	国連英検対策	160					
講義	選択	全国通訳案内士対策	160					
総授業時数			2,160		160		160	
卒業に必要な授業時数 (学則)			2,160					

※ 選択科目は少なくとも5科目選択し、履修するものとする。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
演習	表現力	中村洋子	4単位／80時間

【授業の到達目標及びテーマ】

日本の文化を英語で説明できるようにする。
 そのために何度も声に出すことで単語、文型を覚える。
 数字を使って状況を説明できるようにする。

【講義概要】

通訳メソッドのクイックレスポンス、リプロダクション、シャドーイングを取り入れる。
 『日本のことを1分間英語で話してみる』をテキストに使用する。

回	授業計画及び学習の内容		
1	東京・江戸	14	マスク
2	人口	15	皇室
3	地形と面積	16	武士 小テスト
4	文字	17	武道
5	敬語	18	相撲 小テスト
6	自動販売機	19	中間テスト
7	中間テスト	20	俳句
8	渋谷スクランブル交差点	21	浮世絵
9	オタク	22	歌舞伎 小テスト
10	アイドル	23	落語
11	推し活	24	日本のおもてなし 小テスト
12	コスプレイヤー	25	期末テスト 後期終了
13	期末テスト		前期終了

【成績評価方法】

前後期とも学期小テスト各10点合計40点、中間テスト30点、期末テスト30点、合計100点とする。
 小テストはテスト用紙に記入、中間と期末は口頭で行う。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

2人1組になり、クイックレスポンスで一人が声に出した日本語の単語や文をもう一人がすぐに英語に訳す。
 リプロダクションで講師の言った英語をすぐに復唱する。CDを流してシャドーイングをする。
 担当講師は通訳業務の経験がある。授業では通訳メソッドを使ってスピーキングとリスニング力を高める。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	異文化コミュニケーション	田中真奈美、深山敏郎 二階堂幸弘、岡田麻唯	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
現代のグローバル社会において、異文化に対する感受性と他者への共感性を高め、バランスの取れた異文化コミュニケーション能力を身につける。			
【講義概要】			
異文化コミュニケーションに関する諸問題を多面的に捉え、その解決のための方法について考える。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	16	春期の振り返り
2	異文化コミュニケーションとは①	17	異文化コミュニケーションと国際社会(2)環境問題
3	異文化コミュニケーションとは②	18	異文化コミュニケーションと国際社会(3)ジェンダー
4	言語コミュニケーション	19	国際常識としてのシェイクスピア入門①喜劇
5	非言語コミュニケーション	20	国際常識としてのシェイクスピア入門②歴史劇、悲劇
6	自己を知る①	21	国際常識としてのシェイクスピア入門③その他の劇
7	自己を知る②	22	異文化理解①
8	カントリースタディ(1)スイス	23	異文化理解②
9	カントリースタディ(2)イラン・クウェート	24	カルチャーショックと異文化適応
10	カントリースタディ(3)ブルガリア	25	異文化シミュレーション「火星での災難」①
11	異文化と思い込み ゲシュタルト心理学の観点から	26	異文化シミュレーション「火星での災難」②
12	ゲーム:思い込みの排除(地図作成ゲーム)	27	異文化シミュレーション「火星での災難」③
13	異文化コミュニケーション・カントリースタディ(5)アメリカ	28	異文化シミュレーション「火星での災難」④
14	異文化コミュニケーションと国際社会(1)SDGs	29	日本企業と外資系・海外企業の違いの理解と適応①
15	春学期のまとめ	30	日本企業と外資系・海外企業の違いの理解と適応①
		31	異文化コミュニケーションと国際社会(4)宗教・人種
【成績評価方法】			
授業参加40%、創造性、フィードバックシート、小テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
異文化コミュニケーションを体験するグループワークやグループディスカッションなども行う。 担当教員は企業、大学で異文化コミュニケーションを教える専門家と、外務省で実務経験を積んだ専門家であり、各担当は、これまでの実務経験に基づいて、授業をオムニバス形式で展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	日本文化芸能論	佐京由悠	2単位／40時間

【授業の到達目標及びテーマ】

本講義は、学生が日本文化に対して親しみを持ち、その興味関心を充実させるために資する基礎的な知識を伝えることを目的としている。

【講義概要】

前期は「日本の歴史と文化」、後期は「日本の伝統芸能」について扱う。
基本的には講義中心で行うが、受講生には適宜コメントを求めることがある。

回 授業計画及び学習の内容

1 オリエンテーション	16 日本の伝統芸能の紹介—雅楽
2 日本の歴史①(原始—旧石器・縄文・弥生)	17 日本の伝統芸能の紹介—能楽
3 日本の歴史②(古代—ヤマト時代と文化)	18 日本の伝統芸能の紹介—狂言
4 日本の歴史③(古代—奈良時代と文化)	19 日本の伝統芸能の紹介—文楽
5 日本の歴史④(古代—平安時代と文化)	20 日本の伝統芸能の紹介—歌舞伎
6 日本の歴史⑤(中世—鎌倉時代と文化)	21 日本の伝統芸能の紹介—落語
7 日本の歴史⑥(中世—室町時代と文化)	22 日本の伝統芸能の紹介—講談
8 日本の歴史⑦(中世—戦国の世と織豊政権)	23 日本の伝統芸能の紹介—和楽器
9 日本の歴史⑧(近世—江戸時代の始まり)	24 日本の伝統芸能の紹介—茶道
10 日本の歴史⑨(近世—江戸時代の展開と文化)	25 日本の芸術—日本絵画
11 日本の歴史⑩(近世—幕末の乱世)	26 日本の芸術—浮世絵
12 日本の歴史⑪(近代—明治維新と諸改革)	27 日本の芸術—仏像
13 日本の歴史⑫(近代—大正デモクラシー)	28 日本の芸術—日本庭園
14 日本の歴史⑬(近代—戦争とファシズムの時代)	29 日本の芸術—書
15 日本の歴史⑭(現代—戦後世界のなかでの日本)	30 全体のまとめ

【成績評価方法】

前期・後期ともにレポート課題とする(100%)。
なお、出席が全体の2/3未満の場合は成績評価の対象としない。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

授業は基本的に講義形式で行うが、適宜学生に発言を求め、なるべくその興味関心によりそった講義を行う。
担当教員は普段は大学受験予備校で日本史・日本文化史を講義するほか、日本文化の発信に積極的に取り組んでおり、その経験を活かして学生に生きた知識を提供する。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	グローバル時事・経済	柳沼壽	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
経済活動が世界全体に広がるグローバル化を、歴史・理論、現実のデータをとおして理解できるようになります。			
【講義概要】			
グローバル化に伴う光と影を、モノやサービス・人材・金融について取り上げます。 企業の社会的責任や環境問題にも触れる予定です。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	イントロダクション、グローバル化の光と影①	16	金融(きんゆう)と資本(しほん)のグローバル化①
2	グローバル化の光と影②	17	金融と資本のグローバル化②
3	グローバル化の歴史①	18	外国(がいこく)為替(かわせ)レート(レート)の決まり(きまり)方①
4	グローバル化の歴史②	19	外国為替レートの決まり方②
5	グローバル化の歴史③	20	外国為替レートの決まり方③
6	新しいグローバル化①	21	外国為替レートの決まり方④
7	新しいグローバル化②	22	中間テスト
8	中間テスト	23	情報(じょうほう)のグローバル化①
9	人材(じんざい)のグローバル化①	24	情報のグローバル化②
10	人材のグローバル化②	25	企業の市民(しみん)社会(しゃかい)への責任(せきにん)①
11	モノとサービスのグローバル化①	26	企業の市民社会への責任②
12	モノとサービスのグローバル化②	27	企業と世界①
13	国際(こくさい)貿易(ぼうえき)の考え(かんがえ)方(かた)①	28	企業と世界②
14	国際貿易の考え方②	29	グローバル化の行方(ゆくえ)
15	期末(きまつ)テスト	30	期末テスト
【成績評価方法】			
小テスト3回(60%)、最終レポート(30%)、課題提出(10%)			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は基本的に講義形式だが、テーマに応じてグループディスカッションなどを行う。</p> <p>新聞などの資料も使用する。授業は日本語で始めますが、英語に変えることもある。</p> <p>担当教員は日本開発銀行(現日本政策投資銀行)などで役職を歴任し、企業向けの研修や講演なども数多く手がけている。これらの実務経験に基づいて授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	グローバル経営・マーケティング	武川 元	2単位／40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
日本国内における多国籍企業での働き方、渡世術・2国以上にまたがるプロジェクトや業務に従事するためのメンタルティ・プレゼンテーション能力の向上			
【講義概要】			
講師の実務経験をもと卒業後に即戦力となれるようビジネスにおける身のふるまい方。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	自己紹介 自分の経験や能力を人に伝える大切さ	16	生徒発表 平等性についてのプレゼン
2		17	映画鑑賞 Capt. Philips
3	プレゼンテーション 起承転結をベースにしたプレゼンを造ろう	18	
4		19	映画から考察するglobal logistics問題
5	生徒発表 自己紹介プレゼン3分で自分の魅力を訴えよう	20	
6		21	Global logistics から発展する世界経済
7	生徒発表 自己紹介プレゼン3分で自分の魅力を訴えよう	22	
8		23	世界経済から発展するSDGs
9	生徒発表 自分の好きを5分で人に伝えよう	24	
10		25	多国籍企業における渡世術
11	生徒発表 自分の好きを5分で人に伝えよう	26	
12		27	多国籍企業における渡世術
13	生徒発表 平等性についてのプレゼン	28	
14		29	多国籍企業における渡世術
15	生徒発表 平等性についてのプレゼン	30	
【成績評価方法】			
授業態度 出席率 課題への取り組み			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
担当講師は多国籍再生可能エネルギー開発関連会社のプロジェクトマネージャー。前職では海運に幅広く携わり、海運を通して物流、エネルギー、観光にも精通。このような実務経験に基づき授業を展開する。授業形式は学生との対話を重視し、講師と学生で全員参加型のインタラクティブな授業の構築を目指す。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	マナートレーニング	中道はづき	4単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
主にビジネスシーンでの日本のマナーを中心に、マナーの必要性から実際のマナーまでを学び、身に付け、社会生活やビジネスを円滑に行えることを目指す。			
【講義概要】			
前期は生活におけるマナーを、後期はビジネスシーンにおけるマナーを中心に扱う。 日本社会での生活やビジネスを円滑に送るためのマナーの必要性を考えることからはじめ、マナーを身に付けられるように実技を取り入れる。			
1 授業目的のすりあわせ、オリエンテーション	16 ビジネスメール②		
2 挨拶、お辞儀	17 携帯電話のマナー		
3 工作中的態度	18 名刺交換		
4 ビジネスメール①	19 接客訪問		
5 社会人としてしてはいけないこと	20 接待会食		
6 社会人らしい行動と言葉遣い	21 席次		
7 実技①	22 実技③		
8 身だしなみ	23 電話対応		
9 入室・退室	24 指示を受ける		
10 話し方	25 報告連絡相談		
11 敬語	26 社内でのコミュニケーション		
12 整理整頓	27 日本人の仕事観		
13 実技②	28 実技④		
14 中間テスト	29 期末テスト		
15 前期振り返り	30 後期振り返り		
【成績評価方法】			
講義全体を100点満点として採点する。中間テスト、期末テストは各20点、4回の実技(授業点)は各10点、出席は20点とする。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
マナーの必要性や本来の意味を確認するための講義を行った後、マナーを身に付けられるように実技を行う。授業中はビジネスシーンでの上司、先輩、同僚に対しての話し方、ふるまいで参加することを課す。担当教員は外資系、大手日系企業での実務経験に加え、大学キャリアセンターや就職活動支援団体における就職活動支援セミナー講師を担当した経験から、学生の就職支援をサポートする。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	プロジェクトチームワーク	佐京由悠	4単位/80時間

【授業の到達目標及びテーマ】

日本文化に関して、特に自らが関心を持つテーマを決め、他者と協力して研究成果を出すことを目的とする。
3～5人のグループを作り、毎回何かしらの成果を発表しながら、期末の発表会に向けて準備する。

【講義概要】

前期は「日本の歴史のなかで好きな時代・場所・文化」を自分たちの視点で紹介する。
後期は「日本の芸能のなかで、興味のある芸能」を選び、その歴史や成り立ちを研究する。

回	授業計画及び学習の内容
1	オリエンテーション 16 グループつくりとテーマ決め
2	グループワークと小発表① 17 グループワークと小発表①
3	グループワークと小発表② 18 グループワークと小発表②
4	グループワークと小発表③ 19 グループワークと小発表③
5	グループワークと小発表④ 20 グループワークと小発表④
6	グループワークと小発表⑤ 21 グループワークと小発表⑤
7	グループワークと小発表⑥ 22 グループワークと小発表⑥
8	グループワークと小発表⑦ 23 グループワークと小発表⑦
9	グループワークと小発表⑧ 24 グループワークと小発表⑧
10	グループワークと小発表⑨ 25 グループワークと小発表⑨
11	グループワークと小発表⑩ 26 グループワークと小発表⑩
12	グループワークと小発表⑪ 27 グループワークと小発表⑪
13	グループワークと小発表⑫ 28 グループワークと小発表⑫
14	グループワークと小発表⑬ 29 グループワークと小発表⑬
15	全体発表会 30 全体発表会

【成績評価方法】

毎回の小発表、最後の全体発表会の内容と、グループワークを行う際の積極性を評価対象とする。
出席が全体の2／3に満たない者は成績評価の対象としない。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

「日本文化研究」「日本文化芸能論」の授業で得た知識をいかに活用して、自分の興味関心を満たす研究ができる。
担当教員は大学受験予備校で日本史・日本文化史を講義している他、日本文化に関する発信も行っており、その経験を生かして適切な助言を与えながら授業を展開する。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義区分	文章表現	平松明子	4単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
初級レベルの作文及び日記を書くことができるようになること			
【講義概要】			
初級の文型を使って作文・日記の書き方を指導			
回	授業計画及び学習の内容		
1	初級の作文の書き方について説明	16	初級の基本的文型を使った日記のテンプレートを説明
2	モデル文の文法事項に沿って実際に作文を書く	17	日記のテンプレートをもとに日記を書く
3	モデル文の文法事項に沿って実際に作文を書く	18	日記のテンプレートをもとに日記を書く
4	モデル文の文法事項に沿って実際に作文を書く	19	日記のテンプレートをもとに少し長めの日記を書く
5	モデル文の文法事項に沿って実際に作文を書く	20	日記のテンプレートをもとに少し長めの日記を書く
6	モデル文の文法事項に沿って実際に作文を書く	21	日記のテンプレートをもとに少し長めの日記を書く
7	モデル文の文法事項に沿って実際に作文を書く	22	日記のテンプレートをもとに少し長めの日記を書く
8	テーマに沿って独自で作文を書く	23	テンプレートを使わず週末の出来事を書く
9	テーマに沿って独自で作文を書く	24	テンプレートを使わず週末の出来事を書く
10	テーマに沿って独自で作文を書く	25	テンプレートを使わず週末の出来事を書く
11	テーマに沿って独自で作文を書く	26	テンプレートを使わず週末の出来事を書く
12	テーマに沿って独自で作文を書く	27	テンプレートを使わず週末の出来事を書く
13	テーマに沿って独自で作文を書く	28	テンプレートを使わず週末の出来事を書く
14	前期テスト	29	後期テスト
15	前期の振り返り	30	後期の振り返り
【成績評価方法】			
授業参加50%、テスト50%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
初級レベルの作文で自分の気持ちを言語化できるように指導。学生同士のフィードバック（インタビュー形式）も促し、作文を客観的に見る視点を持てるようにする。担当教員は、東南アジア中国・ヨーロッパ諸国・米国・南米・中東諸国で実務経験があり、環境保護や先住民民族問題についての著書あり。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	ITリテラシー	塚本誠子	2単位/40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
Word、Excelの使い方をマスターする。			
【講義概要】			
実践方式でパソコンを使いながら文書や表の使い方を学ぶ。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	Word: 入力と保存、読み込み	16	Excel: 画面構成、セルの範囲
2	画面構成、文字の書式設定、段落の書式設定	17	文字の書式設定、背景色と罫線の指定、
3	箇条書きと段落番号、罫線と網掛け、	18	行、列の操作、文字の配置と小数点以下の表示
4	スタイルの活用、アウトラインレベルとスタイルの変	19	セルの書式設定、オートフィルとセルの結合
5	ヘッダーとフッター、表紙と目次の作成	20	ワークシートの操作、印刷、PDFの作成、印刷レイアウト
6	文書の印刷とPDFの作成、ページ設定	21	数式の入力
7	表の作成	22	関数の入力
8	画像の利用、テキストボックスとワードアート	23	グラフの作成と編集
9	グラフの作成	24	データのダウンロードとCSVの活用、並べ替え
10	SmartArtの作成	25	ふりがなの表示と編集、フィルターの活用
11	タブの活用	26	条件付き書式
12	検索と置換	27	クイック分析
13	変更履歴の活用	28	ウィンドウ枠の固定とシートの保護
14	数式の入力	29	画像や図形の挿入
15	前期試験	30	後期試験
【成績評価方法】			
授業態度、出席率40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>実際に練習を重ねることで文書や表に慣れ、自分のスキルの一つにすることができる。</p> <p>担当教員はMicrosoft技能検定試験に合格しており、各種資料の作成の知識、経験を有している。</p> <p>これまでの実務経験に基づきPCのスキル向上に向け、授業を展開する。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
国際コミュニケーション	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必須科目	検定対策	吉村柚美	2単位/40時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
日本企業で求められるN2の取得を目指すため、日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、ビジネスでの幅広い場面で使われる日本語を、ある程度理解できるレベルを目指す。			
【講義概要】			
①言語知識(文字、語彙、文法)と②読解と③聴解の分野で、まんべんなく理解が進むよう、繰り返し指導する。日本語能力試験の目標レベルに合格できるよう、徹底して指導していく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	漢字読み		
2	表記		
3	語形成		
4	文脈規定		
5	言い換え類義		
6	用法		
7	文法形式の判断		
8	文の組み立て		
9	文章の文法		
10	メールや掲示物		
11	評論と説明文		
12	統合理解		
13	情報検索		
14	聴解		
15	授業の総復習		
【成績評価方法】			
日頃の講義での出席率、授業での貢献度、理解度を鑑み、授業での達成度を主に基軸にして成績を評価する。ただし、定期的に行われる小試験の結果も参考にする。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義をしながら学生の積極的な授業参加を促す。 4分野(読む、書く、聞く、話す)の力を等しく伸ばす。 尚、講師は日本語教育能力検定試験合格者であり、日本語学校でも教えており、日本語の講師としては適正な有資格者である。尚、英語の能力も優れているので 深い説明ができると確信する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー 国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必須科目	面接対策	吉村柚美	2単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
日本企業で求められるビジネス感覚を身に着けるため、日常的な場面で使われる日本語と日本文化の理解に加え、幅広いビジネスの場面で使える日本語とそれを使うときのビジネスマナーとルールを体得してもらい実際に自然に使いこなせるレベルを目指す。			
【講義概要】			
日本の文化とそれぞれの学生の母国の文化の違いを理解させ、日本で社会人になる際のマナーの準備をする。日本の社会でのルールを理解させ、社会人になった時に円滑に働けるよう、ルールの準備をする。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	日本人の上司、先輩、同僚との付き合い方		
2	身だしなみ		
3	チームワーク・会社の組織と役職		
4	配慮のある話し方とジェスチャー		
5	就業時間と時間厳守		
6	挨拶・表情動作		
7	報告・連絡・相談		
8	情報管理・ハラスメント		
9	マナー（社内・葬儀・贈答・酒の席）		
10	ウチとソトの関係		
11	名刺の扱い方 敬語		
12	訪問のマナー		
13	ビジネス文書の作成		
14	電話をかけるとき		
15	面接の練習		
【成績評価方法】			
日頃の講義での出席率、授業での貢献度、理解度を鑑み、授業での達成度を基軸にして成績を評価する。授業での貢献度、実際にビジネスマナーがどれだけ身についたかを評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義をしながら学生の積極的な授業参加を促す。 実技をふんだんに取り入れる。双方向の授業を展開する。 尚、講師は日教育能力検定試験合格者であり、日本語学校でも教えている。日本航空の客室乗務員の経験や海外の経験を活かせる。尚、英検1級の面接委員の経験から面接の準備の対応ができる。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年/通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	サービス接客スキルアップ	浅島秀彦	4単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
観光産業、サービス業を目指す者にとって、最も重要な資質の一つであるホスピタリティマインドの「理解」「共感」「涵養」とその「醸成」を行う。そして、教室で…、学内で…、実習先で…、アルバイト先で…、家庭で…、就職先で…、その効果を行動に生かせることを目標としサービス接客のスキルアップを図る。			
【講義概要】			
サービス業の中心的業種としてのホテル業を中心に、ホテルエとしてのホスピタリティ涵養の観点から、業務・仕組み・接客、そして、関連業種の実例/(実習)/実務演習 まで、レクチャーをとおり、ホスピタリティマインドを育て、磨いてゆこうと企図しています。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	自己紹介:日本語で話す	16	Hospitality People:旅館のおもてなし/Hotelのサービス
2	挨拶:日本語を聞きとる	17	Hospitality People:Theme Park/TDRに学ぶ
3	敬語の基本:日本語で会話する	18	Service Management:クオリティサービス
4	Well-Mannered:身だしなみと接客会話/Hotel	19	Service Management:おもてなしマネジメント
5	Well-Mannered:目的別接客トークを試みる/Hotel	20	Hotel Business:Hotel Back Office/ホテルの仕組み
6	Business Manner:電話対応ビジネストーク/Hotel	21	Hotel Business:Rooms/ユニフォームサービス
7	Business Manner:接客対応・案内・入室/Hotel	22	Hotel Business:Rooms/予約・アサイメント
8	Business Study:協働システム・会社・企業	23	Hotel Business:Rooms/ハウスキーパーと客室
9	Business Study:会社の経営・継続・成長	24	Hotel Business:フロントキャッシャー/客室料金
10	Business Study:マーケティングは販売じゃあない	25	Hotel Business:Banquet/一般宴会・パーティの形式
11	Business Study:STPマーケティング・ブランディング	26	Hotel Business:Banquet/婚礼宴会・挙式から披露宴
12	Outline of Hotels:Lodging Industry/ホテルの分類	27	Hotel Business:F&B/Restaurant施設と食器
13	Outline of Hotels:ホテルのビジネス特性	28	Hotel Business:F&B/Bar・Lounge/酒の知識
14	Outline of Hotels:World Leading Hotel/IRとMICE市	29	Hotel Business:F&B/調理部門・メニュー・コース料理
15	Hospitality People:日本の旅館	30	Hotel Business:Sales/ホテルのセールス戦略
【成績評価方法】			
「年間2回の筆記考課試験」「課題レポートの作成・期限内提出」「授業毎実施の小クイズ回答」「授業参加態様」を出席率に、加重加減し、最終評価を行う。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
担当教員は、大学卒業後、建設会社勤務を経て、米国大学で財務・会計学を1年半研修を終了。その後、いくつかの国内および海外の大型ホテルに勤務し、コントローラー・支配人といった経験をも有しています。ホテルはサービス業ビジネスの王道と自負しており、その経験に基づき授業を展開する。スクール形式を基本とし、ゼミナール方式で、学生にはクラスに参加できるよう、ロールプレイング、レポートの作成等を課してゆきます。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	グローバルコミュニケーション英語	ELDER KATIE MICHELLE	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>1年次に学んだことを基礎とし、英語を使ったコミュニケーション力を身につける</p> <p>日常からフォーマルまで様々な場面で、英語を使って自分の考えや相手への依頼や物事の説明などができるようになる。</p>			
【講義概要】			
<p>世界の共通言語として使われている英語の特に「話す」と「聞く」の練習を行う。</p> <p>練習はより日常の会話場面ごとに行い、そのときに必要な語彙や文法表現を同時に学ぶ。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	Icebreaker	16	Daily convers ①
2.3	Speaking Practice Shadowing and dialogue.	17	Daily convers ②
4.5	Vocabulary Building Introduce new vocabulary	18	Daily convers ③
	related to the speaking activity ora particular theme.	19	Daily convers ④
6.7	Grammar Explanation Introduce new grammar	20	Daily convers ⑤
	related to the speaking activity or a particular theme.	21	Daily convers ⑥
8.9	Using Grammar and Vocabulary Game or activity	22	Daily convers ⑦
	that involves using grammar and new vocabulary	23	Daily convers ⑧
10.11	Book Work Transition to bookwork to reinforce	24	Daily convers ⑨
	vocabulary, grammar, and comprehension skills.	25	Daily convers ⑩
12.13	Review and Feedback Review the key points	26	Daily convers ⑪
	covered during the lesson.	27	Daily convers ⑫
14	Answer questions	28	Daily convers ⑬
15	test	29	Daily convers ⑭
		30	Test
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>授業は基本的に講義形式だが、テーマに応じてグループワークなどを行う。</p> <p>担当教員は、米国人であり、ネイティブの生きた英会話を学ぶ。</p>			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	TOEIC	松尾和枝	4単位/80時間

【授業の到達目標及びテーマ】

1年次からのスキルアップ。
TOEICテスト600点以上を目指し、リスニング、グラマー、リーディングの実践的な実力をつける。

【講義概要】

TOEICテストの形式に従って、問題の傾向を踏まえ頻出問題や重要な攻略ポイントを解説、演習。
テキスト『TOEIC L&Rテスト全パートをひとつひとつわかりやすく』を使用

回	授業計画及び学習の内容	
1	Part1 写真描写問題	16 Part7 読解問題
2	Part1 写真描写問題 実戦問題	17 Part7 読解問題
3	Part2 応答問題	18 Part7 読解問題
4	Part2 応答問題 実戦問題	19 Part7 読解問題 実践問題
5	Part3会話問題&4 説明文問題	20 全パート問題 テスト演習 解説
6	Part3会話問題&4 説明文問題	21 全パート問題 テスト演習 解説
7	Part3会話問題&4 説明文問題 実戦テスト	22 全パート問題 テスト演習 解説
8	Part5 短文穴埋め問題	23 全パート問題 テスト演習 解説
9	Part5 短文穴埋め問題	24 全パート問題 テスト演習 解説
10	Part5 短文穴埋め問題 実戦テスト	25 全パート問題 テスト演習 解説
11	Part6 長文穴埋め問題	26 全パート問題 テスト演習 解説
12	Part6 長文穴埋め問題	27 全パート問題 テスト演習 解説
13	Part6 長文穴埋め問題 実戦テスト	28 復習
14	定期試験	29 定期試験
15	定期試験フィードバック	30 定期試験フィードバック

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。定期試験40点✖□2
出席率20点から成績評価を行う。なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義と演習、解説。質疑応答という形式で実践的に行う。
担当教師はTOEIC960点、英検一級、高等学校専修免許状(英語)、全国通訳案内士(英語)資格を持ち、語学学校でTOEIC講座を10年以上担当経験がある。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	プレゼンテーション(企業研究)	多田徳彦	4単位/80時間

【授業の到達目標及びテーマ】

- ・企業のビジネスモデル、市場での競争力、業界内での位置づけを理解する。
- ・企業の強み、弱み、機会、脅威を分析し、将来性を評価する。
- ・就職活動やキャリア形成において、自分に合った企業を見極めるための基準を得る。

【講義概要】

企業を研究する上で重要な用語や考え方の説明する(パート1)と具体的な企業や業界を分析し解説する(パート2)もの。

回 授業計画及び学習の内容

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 授業に関するオリエンテーション、興味の確認 | 16 社会的責任(CSR)とは。具体的企業研究。 |
| 2 ステークホルダーとは。具体的企業研究。 | 17 コアコンピタンスとは。具体的企業研究。 |
| 3 プラットフォーム戦略とは。具体的企業研究。 | 18 知的財産権とは。具体的企業研究。 |
| 4 SWOT分析とは。具体的企業研究。 | 19 グローバル展開戦略とは。具体的企業研究。 |
| 5 MVVとは。具体的企業研究。 | 20 人工知能(AI)の活用とは。具体的企業研究。 |
| 6 M&A戦略とは。具体的企業研究。 | 21 D2C戦略とは。具体的企業研究。 |
| 7 組織文化とは。具体的企業研究。 | 22 オムニチャネル戦略とは。具体的企業研究。 |
| 8 市場シェアとは。具体的企業研究。 | 23 オープンイノベーションとは。具体的企業研究。 |
| 9 標準化戦略とは。具体的企業研究。 | 24 顧客関係管理(CRM)とは。具体的企業研究。 |
| 10 イノベーション能力とは。具体的企業研究。 | 25 Eコマース戦略とは。具体的企業研究。 |
| 11 キャッシュフローとは。具体的企業研究。 | 26 後期講義内容の理解度試験。 |
| 12 DXとは。具体的企業研究。 | |
| 13 サステナビリティとは。具体的企業研究。 | |
| 14 前期講義内容の理解度試験 | |
| 15 サブスクリプションモデルとは。具体的企業研究。 | |

【成績評価方法】

前期、後期年2回の試験による理解度の客観的把握を主に、授業での発言や積極性も考慮し総合判断する。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

社会に出て活かせる用語、戦略を表面的に理解するに留めず、実践的且つ本質的に理解できるように指導する。

担当教員は、38年間総合商社で実際の国際ビジネスに携わり理論を実践で使用してきており、

この経験を授業に活用する。

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	通訳翻訳基礎	小高功二	4単位/80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
観光産業、外食産業において、英語能力を高め、インバウンドで来日するお客様と各宿泊施設や、レストラン店舗スタッフとの間の意思疎通の促進、サービス向上に貢献できるレベルになることを目標とする。			
【講義概要】			
年間を通して、簡単な挨拶から始め、状況や場所に応じた英語の翻訳と通訳とコミュニケーションを目指す。重要なことは、通訳も翻訳もコミュニケーションを目的としていること。単に言葉を伝えるのではなく、伝え方も含めた能力向上達成を目標とする。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	挨拶の仕方(いろいろな挨拶)	16	物の数え方
2	場所や状況を考えようⅠ(朝、昼、晩)	17	重さ、長さ、
3	場所や状況を考えようⅡ(交通機関、ホテル)	18	ホテルの中の名称(言い方がある)
4	場所や状況を考えようⅢ(学校、市役所)	19	レストランでの言い方
5	Whatの使い方	20	空港で使う英語
6	Whenの使い方	21	電車の中のアナウンス
7	Whoの使い方	22	新幹線は英語でも新幹線？
8	Whereの使い方	23	日本のことを英語で説明してみる1(切符)
9	Howの使い方	24	日本のことを英語で説明してみる2(自動販売機)
10	5H1H 全部使ってみよう	25	日本のことを英語で説明してみる3(神社)
11	Want の使い方(人をお願いしてみよう)	26	日本のことを英語で説明してみる4(お寺)
12	Makeの使いかた	27	日本のことを英語で説明してみる5(納豆)
13	Takeを使って英語力を伸ばそう	28	デジタル決済について(種類)
14	Haveの使いかた	29	ロールプレー(ホテル編)
15	LET は使い方次第で便利	30	ロールプレー(レストラン編)
【成績評価方法】			
テクニクよりも相手に伝わる事が採点の基準とする。間違えても主体的にコミュニケーションをとる姿勢、態度は、実践でとても重要な要素。前期1回、後期は2回程ロールプレーイングで評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
授業は講義形式だが、双方向のコミュニケーションをとりながら展開する。通訳も翻訳も人と人のコミュニケーションの潤滑材ということを理解してもらい、うまく話す、訳すよりも気持ちが伝わる会話、翻訳能力の向上を目指す。35年の旅行会社勤務、通訳案内士としての実務経験(ガイド、翻訳)を踏まえ、人とのコミュニケーションを大切にできる人を育てることを目指し授業を展開する。			

専門学校 東京声優・国際アカデミー

国際コミュニケーション学科

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
文化・教養専門課程	国際コミュニケーション学科	2024年度	2年／通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
講義	一般教養 地理歴史	松尾和枝	4単位／80時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<ul style="list-style-type: none"> ・一年次に学んだことを基礎とし、一般教養として地理と歴史をより深く身につける。 ・大学の研究や就職後の業務に役立つ日本について基本的な事象、文化、歴史を学ぶ。 			
【講義概要】			
<ul style="list-style-type: none"> ・47都道府県と日本の地理、歴史、文化を学ぶ。・現代社会にある出来事を結び付けながら知識を深めていく。 ・日本全国を旅するように、その土地の歴史、文化に触れる。 ・各地域の特徴や興味を探り、探究、共有する。 			
授業計画及び学習の内容			
1	オリエンテーション/日本の地域区分 東京1	16	中部地方①
2	関東地方① 東京2	17	中部地方②
3	関東地方② 群馬県 千葉県	18	中部地方③
4	関東地方③ 埼玉県 神奈川県	19	中部地方④
5	関東地方④ 茨城県 栃木県	20	東北地方①
6	近畿地方① 大阪 京都	21	東北地方②
7	近畿地方② 京都 奈良	22	東北地方③
8	近畿地方③ 三重 和歌山	23	四国地方①
9	近畿地方④ 兵庫 滋賀	24	四国地方②
10	北海道①	25	四国地方③
11	北海道②	26	九州地方①
12	中国地方①	27	九州地方②
13	中国地方②	28	九州地方③
14	中国地方③	29	九州地方④
15	確認テスト	30	確認テスト
【成績評価方法】			
授業参加40%、テスト60%			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義、生徒のプレゼンテーション ディスカッション など日によって形式は変わる。担当教師は、全国通訳案内士(英語)資格を持ち、ガイド経験とインバウンド観光の視点からの日本の地理、文化、歴史に関して幅広い知識を持つ。			